

# 取産 香遺

Vol.82

## 「小見川農商銀行」 戦前には数少ない 優良地方銀行



▲棟札(左)と旧小見川農商銀行本店(右)

戦前の日本には、今よりはるかにたくさんの方銀行がありました。それらは、その名前に地名を冠し、地域に密接した営業を行って、まさしく地域の経済を支える代表的な存在でもありました。そのひとつが、かつて小見川町に本店を置いて経営を行っていた、小見川農商銀行です。

小見川農商銀行は、明治31年(1898)3月22日に営業を開始しました。設立者となったのは、小見川町や、府馬村、八都村(山田地区)に住む廻船問屋・商人・地主など、その当時の地元の有力者たちでした。小見川農商銀行の預金者には、利根川の対岸、茨城県側の住民も多く、設立直後から急速に預金額を増やしていきました。

設立から約2年後、不景気(恐慌)によって、存続の危機に見舞われましたが、経営者たちの努力によって、この苦境を乗り越えます。これ以

後、無理な貸し出しや支店の拡張を行わず、着実に預金量を増やしていった小見川農商銀行は、預金額が貸付金額を上回る、当時の地方銀行としては珍しい堅実な経営を行います。関東大震災や昭和の金融恐慌など、他の銀行が休業や取り付け騒ぎに陥る中でも順調に経営を続けた結果、県内の有力かつ優良な中堅銀行としての地位を獲得していききました。

こうして戦前の数ある地方銀行のなかで、独自の、そして輝かしい足跡を刻んだ小見川農商銀行は、地方銀行の統合を進める国策の下で、千葉合同銀行・第九十八銀行と合併を行い、昭和18年(1943)に現在の千葉銀行となります。本年2013年3月31日は、それからちょうど70年となります。

問い合わせ

伊能忠敬記念館 ☎(54)1118